

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」

教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信 【第52回】

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb

検索

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(二)

真宗同朋会運動の発足 (2)

教化本部 古卿 誠幸

真宗同朋会運動50年に向けた運動の再検証。今回は、1962(昭和37)年第70回宗議会にて提案された真宗同朋会条例採択にまつわる議論の背景について。

また「点描」は、1969(昭和44)年の北海道開教百年。この年が教団、教区にとっていかなる意味をもたらすのか。そのはじまり。

1962(昭和37)年3月1日第9回宗議会議員選挙が行われた。4月6日・7日両日第69回臨時宗議会が開催され、翌8日第2次訓彌内局が発足、続いて6月8日から22日まで第70回宗議会が開かれ、同朋会運動促進のため、第1次5ヶ年計画が発表された。すでに6月11日には最大会派となる直道会(後に同朋教団確立同志会となる。現在の真宗興法議員団)が結成され、条例案に一致して賛成することが決定されていた。しかし、訓彌内局の目指した同朋会条例に対し、直道会に参加しない7人の議員が異議の申し立てをした。特に問題となったのは「家の宗教」に対するものであった。

総長演説は「戦前の家族制度の法律的廃止から『家』は、最早崩壊の危機に立つておるのであります(中略)さまざまな制度や社会事情が目下改変されつつある時、本来の姿に還って、個の上に立つた会員制の上に改むべき時が来ておるのであります」という提言であった。この会員制という事については、従来の相統講が宗門護持に大きな役割を果たしてきた事を認めつつも、この同朋会が「相統講の遺徳を継承してさらに現代的に発足しようとするもの」として位置付けている。

これに対して、質問は「この同朋会の発足については、もつと慎重に、次第順序を考えて、全国の輿論の喚起を待つて行わるべき」という慎重論や、「わが宗門は、わが教団の法人制は寺院の世襲制とこの家につながる寺檀関係の強靱なるところに、わが教団の強力なる基盤があると思ふ」(第70回宗議会(通常会)議事録)という「家の宗教」が寺檀関係をそのまま意

味するものとされ、反対派だけではなく、賛成派からも「檀徒制度というものが混乱を起こすのではないか」と危惧する声も強かったという。しかし、それに対し「家ぐるみの組織化ということは当然でありまして、ただ宗教の本質から申しまして、家の宗教というものはないんであります。信仰は、あくまでも個人の上の自覚に立たねばならない」という本来的のすがたへ、家は家としておいて変えねばならぬということを示し上げた次第で「ごさいます」(前掲)と「家の宗教」と「家ぐるみの組織化」との区別を明確にし、従来の寺檀関係を否定するものではないとしている。

- 11/10、12 第9組 法養寺おみがき 20名
- 11/14、16 第5組 後期教習 7名
- 11/14、16 第5組 光台寺・敬徳寺一般 8名
- 11/28 第9組 正楽寺 8名
- 11/28 第16組 好藏寺 24名
- 11/28 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 お待ち受け総上山 一日参拝 9月▲



御満座のお勤めはもちろんですが、御修復がなされた御影堂屋根を目の当たりにして、お念仏の歴史に感動しました。



ダイナミックな「坂東曲」、300名の同朋との「お斎」をともにし、本山報恩講をお参りさせていただきました。



もどられたばかりの親鸞聖人の前で行われた帰敬式では、言葉に表せない大切なお心を頂いたような感じがします。



参加者、各々に新しい一歩を踏み出す大切な機縁となりました。



共に勤めた正信偈が心に響き深い感動がありました、と語ってくれた人がいました。



同朋会館50年の歴史に加えさせて頂きました。感謝感激です!

第16組 親鸞探検隊後期講習40名